

令和5年度 第1回東久留米市立図書館協議会 会議要録

日時 2023（令和5）年5月30日（火）午後2時～3時55分

会場 東久留米市立中央図書館2階多目的室

出席 （以下敬称略）

図書館協議会委員：安形輝（委員長）、齋藤実（副委員長）、矢部晶代、青野正太、佐藤尚子、山本久美子、酒井量基

市：島崎図書館長、図書館主査、図書館主任

指定管理者：中央図書館長兼統括責任者、滝山図書館長、ひばりが丘図書館長、東部図書館長

欠席 図書館協議会委員：古矢美雪、下田大輔、菅沼法子

傍聴者 3名

1. 開会

2. 報告事項

①令和4年度の利用実績等について

委員長 次第2、報告事項に入ります。はじめに令和4年度の利用実績等について図書館長より説明をお願いします。

図書館長 資料1、令和4年度実績をご覧ください。こちらは平成30年度から令和4年度までの登録者数、貸出点数、蔵書数実績をまとめたものです。令和元年度末から新型コロナウイルスの影響が始まり、令和2年3月には休館、その後さまざまな配慮と対応をしながら開館していた時期です。また、令和2年度は中央図書館が大規模改修のため休館していました。今年5月10日をもって新型コロナウイルスも5類に移行してからは、さまざまな制限もなくなり、イベントなども含めて通常開館しています。実績としては、コロナ前の平成30年度がピークで、その後落ち込んで、徐々に回復しているところで、今年度の実績が重要になってくると考えています。続いて令和4年度利用者満足度調査報告書について、中央図書館長から説明します。

中央図書館長 当日配布資料の令和4年度利用者満足度調査結果報告書をご覧ください。新型コロナウイルス蔓延の時期に実施したこともあり、令和3年度の342件に対し、令和4年度は492件と微増の実績になっています。図書館サービスについての満足度ですが、所蔵している資料の内容、企画展示・特集、施設設備において80%台、資料の探しやすさ、スタッフのあいさつ・接客態度、案内・調べもの相談においてはいずれも90%以上と高評価をいただいています。その他についてはご覧いただいた通りの結果になっています。他

に自由意見を213件いただいています。内訳は、開館時間に関することが4件、施設・設備・立地に関することが39件、資料に関することが46件、接遇に関することが20件、サービスに関することが59件、その他が45件です。代表的な意見は、開館時間に関してが、清瀬市・西東京市と同じ月曜日を休みにしてほしいなどです。次に施設・設備・立地については、中央図書館が全体の32%の回収数であることに對し、地区館は平均で11.5%と大きな差が出ています。代表的な意見は、自習室に仕切りがあるとなおよいなどです。資料については、地区館46件中10件が視聴覚資料についての要望でした。接遇については、20件中17件がお褒めの言葉になります。サービスについては、中央図書館で16件中5件の31.3%に当たりますが、Wi-Fiに対する不満です。これは中央図書館のWi-Fiの接続が切れてしまうことが多く、それに対しての意見だと思っています。続いて、利用アンケート結果報告書に移ります。このアンケートの趣旨ですが、東久留米市立図書館を利用していない児童・生徒から声を聞き、来館促進のヒントとなる点を直接伺うというものです。市教育委員会協力の下、市内小・中学校19校にWebアンケートを実施し、4,354件の回答をいただきました。また、東久留米駅・ひばりヶ丘駅と公共施設の11カ所にポスターを掲示して、57件の意見をいただきました。内容については、まず小・中学生編をご覧ください。問2「図書館に行ったことはありますか」に対して90%の児童・生徒が行ったことがあると回答しています。しかし、問3「なぜ行かないか」に対しては、回答中「自宅から遠い」が40%でした。また、「他の図書館に行くから」が10%という結果は先ほどの利用者満足度調査にもつながり、資料・接遇・施設などのカテゴリーにおいて、再考の余地があると感じています。自由意見で最も多かったのは、学習スペースに関する要望で、小・中学校ともに回答数の約4割がその意見になります。資料についての意見は、小学生は圧倒的に漫画の要望ですが、中学生になると小説が多く、多岐にわたるジャンルの本をそろえてほしいなど具体的な意見もいただいています。今回の利用者満足度調査と利用者アンケートの結果を運営、具体的な選書業務にも参考にしたいと思えます。

委員長

図書館長と中央図書館長から説明があった件について、質問や意見等ありますか。小学生では漫画・コミックに対する要望が多かったが、中学生には設問に漫画・コミックがなかったのですか。

中央図書館長

中学生のアンケートに関しては、年齢的なところを考慮して、一般と同じアンケート項目を使用しています。

委員長

漫画・コミックに関してはいろいろと判断が難しい資料の類だと思います。一般・中学生編にも、次回以降入れると考える手掛かりになると思います。

小学生で漫画が多いのは、なんとなくそうかとは思いますが、それをどこまで参考にできるかというところもあると思います。

委員

一般編の中で挙がっていた視聴覚資料の充実という意見ですが、オーディオビジュアルはいろいろな種類がありますが、どういう意見だったのでしょうか。

中央図書館長

DVDを入れてほしいという意見が多くありました。

委員

例えば映画とかですか。

中央図書館長

具体的なタイトルは書いてありませんが、特に滝山図書館の利用者から多く寄せられています。来館する利用者の年齢層も大きく影響していると感じています。

委員長

アンケートとさまざまな技術の進展は、うまく合致しないところもあって、今の若い方は、映画や音楽は、どちらかといえば配信サービスを利用するので、DVDに対する要望があるから購入の判断をするのは、このようなアンケートの結果からは解釈が難しいところではありますね。

委員

意見として伺っておくか、具体的に対応するかの判断は難しいと思います。あと月曜日の休館を要望するコメントについても、比較的月曜日休館の図書館が多いので、わざとずらして金曜日になっているのですか。

図書館長

決定した理由は詳しくは分かりませんが、近隣市が月曜日休館なら、金曜日に休館にしておくのも、また一つの考え方なのかなとは思っています。

委員

急いでいる人にとっては、少しぐらい遠くても別の図書館に行きたいことがあるかもしれないので、みんな月曜日休みではない方がいいのかとは思いますが。あと小・中学生で図書館に行ったことがない人に対する質問ですが、「他の図書館を利用しているため」とか「他の図書館に行くから」というコメントがあり、他市と隣接している地域の児童・生徒が他市に行くのは、仕方がないのかと思います。ただ一方で小・中学生には使ってもらいたいのので、学校と協力して事業に取り組んでももらえればと思いました。

図書館長

滝山図書館は小平市に接しているので小平市の利用者も多いですし、ひばりが丘図書館は西東京市に接しているので西東京市の利用者が多いです。その辺は相互に利用し合っているのかと思います。

委員

「他の図書館に行くから」というのは、学校図書館も含むのですか。

中央図書館長

小学校低学年では、学校図書館と勘違いしていると思われる回答も見受けられます。

委員長

回答者の属性からどこまできちんと伝わっているかということも含めて解釈しないといけないといったところですかね。

委員

中央図書館や地区館ではなく学校図書館についての質問だと思って回答しているということでしょうか。

- 中央図書館長** 今回のアンケートは、児童・生徒に1台ずつ供与されているタブレット端末を使って実施しました。小学校低学年の児童も当然参加していますので、そこで何らかの勘違いもあったのかと思います。
- 委員** 行ったことがあるという90%の中には、学校の図書館に行ったことがあるという回答も入っているということでしょうか。
- 中央図書館長** 入っているかもしれません。
- 委員長** これがいろいろと解釈が難しいと言っているところなのですね。
- 委員** 確かに図書館というと学校の図書室を思い浮かべるこどもの方が多いかもしれません。
- 委員長** 文面を読んで理解して回答してもらうことを考えると、情報量をあまり多くするのも難しいのですが、一方で図書館というだけですと先生からどこまで説明がされているかというところですね。
- 委員** 例えば、最初にどこの地域の図書館に行ったことがありますかという質問を加えると、学校の図書室ではないことが分かると思います。
- 中央図書館長** 次回に反映させたいと思います。
- 委員長** 1回やって、いろいろとデータの解釈が難しいところを次に生かすことができればいいと思います。
- 委員** 小・中学生への調査はサンプル数も多くすごくいいと思いました。
- 委員長** やはり小・中学校の先生を通じて行った効果はすごいですね。
- 委員** 一方で一般編はサンプル数が減って、全体を反映するというか、傾向的などころを捉えたといったところでしょうか。
- 委員長** ポスターがあってQRコードを読み取ることまでしてくれる利用者というバイアスが掛かりますので、ご指摘の通りかと思います。逆にいうと小・中学生のアンケートは大事にして、悉皆（しっかい）調査は大変強力なので、ぜひひとも生かしてもらえたらと思います。同時に一般編は回答数が増えるような工夫ができるといいと思います。
- 委員** 視聴覚資料の要望にもありましたが、市内でDVD・CDを借りられる場所がほとんどなくなってしまい、書店にもCD・DVDを購入できるか問い合わせが多いです。一定程度はそろえることも考えてもらいたいです。若い人は配信を利用するのでいいのですが、高齢者は困っているようです。ぜひ検討してもらえればと思います。それから、自由回答の資料が今回ないということですが、できれば見たいと思いました。
- 委員長** もしセンシティブな内容が含まれている場合は、例えば閲覧という手段もあるかと思います。それから、Wi-Fiがつながりにくいという意見がありました。インターネット接続サービスを提供するのであれば、安定的な提供をお願いしたいと思います。

②令和5年度の事業計画について

- 委員長** 報告事項の②令和5年度の事業計画について、図書館長より説明をお願いします。
- 図書館長** 資料2、東久留米市第2次教育振興基本計画令和5年度事業計画をご覧ください。第2次教育振興基本計画は、令和元年度から令和5年度の5年計画で、今年度の事業計画が最終年度のものになります。今年度計画は昨年度を踏襲したものとなりますが、「(1) 図書館サービスの充実」の「①資料・情報提供の充実と学習支援」には、今年度から新たにレファレンス件数10%増、利用者登録数10%増、貸出数10%増といった数値目標を入れていました。計画に目標数値を入れることになり対応したものです。現状ではコロナ前の状況には戻していきたいという希望に基づいて記入しています。同様に「②地域資料・行政資料の収集・保存」「③子ども読書活動の推進」にも児童書貸出数10%増という数値目標を入れていました。今年度の状況を見ながら来年度以降の新たな基本計画の策定にも反映していきたいと思っています。
- 委員長** 今年度の事業計画について、何か質問・意見等ありますか。
- 委員** 図書館ホームページの充実が数カ所書かれているのですが、先ほどの利用者満足度調査にも、ホームページに対する意見があったのか、それに対する対応も含めて、不便を感じているからこうするとか、新たな取り組みをするとか、そういうアイデアがあれば聞かせてください。
- 図書館長** 図書館ホームページについては、利用者アンケートに関わらず、ご意見箱などからもいろいろな意見をいただいています。昨年度の図書館協議会の中でも、システムの更新に合わせて利用しやすいものと考えていると説明しましたが、物価の高騰など、経費的にいろいろと難しいところもあります。その中でできる限り対応していきたいとは考えていますが、引き続きの課題ではあります。
- 委員** ホームページ自体の技術ももちろんあるとは思いますが、そこに引っ張ってくる導入部分の工夫も必要ではないかと思います。この間、広報に「くるめっこナビ」という妊婦と子育て中の方を対象とした子育て応援アプリが掲載されていました。子育てに関する市の情報がメインだと思うのですが、ここに何か図書館の児童サービス・こどもサービスへのお知らせといったものを載せることはできるのでしょうか。
- 図書館主任** いろいろなページがあると思いますが、図書館に関する部分にはブックスタートとおはなし会の情報を提供しているので、子育て関連の主管課と連携し、時期に合わせて図書館の情報も載せています。
- 図書館長** そこから、図書館のホームページへの誘導など、どこまでその中で対応できるのか、はっきりとは分かりません。

- 委員** 今どきの若い方は、スマートフォンで何でも情報を入手できると思うので、そのチャンネルを使えたらいいなと思いました。
- 委員長** 市の他課との連携で、もしアプリのお知らせの所に図書館が一推しの子育て系のイベント情報があって、そういった案内ができるのと本当はいいですね。
- 委員** 事業計画での目標数値ですが、コロナ禍前の数字に持って行こうということで2桁の利用増を掲げているのですが、実際できるのでしょうか。
- 委員長** 実際のサービス関係で、数値目標を出さなければならないことが多いのですが、個人的にやや危険だと思うのは、コロナ回復期で実績を作ってしまうとその後が怖いなとは思っています。
- 委員** 数値目標はかなり高いと感じました。閲覧席は結構埋まっている気がするので、あと10%増やすには、席を増やすことができれば状況が変わると思うのですが、現状のままの施設で10%上げるのは至難の業かなと思います。
- 図書館長** 図書館資料の貸出数ですと、協議会でも図書館を評価する数値にはなり得ないという意見をいただいていますので、そのつもりでいるのですが、計画の中で数値目標の設定があるので記載しています。教育振興基本計画も今年度は改定があるので、それに合わせて目標も精査して分かりやすく、達成しやすいという言い方はおかしいのですが、図書館の評価につながるようなものを考えて、目標値にしたいとは思っています。
- 委員長** 事業計画について図書館に限らず教育全般に関係してですが、最近のチャットGPTなどの生成系AIの話で、学校教育に直接影響があって、社会教育に関しても特に情報提供機能に関してはかなり影響があると思います。その中で生成系のAIができること、できないこと、ないしは教育に役に立つこと、役に立たないことの見極めをある程度していけないといけないのかと思っています。事業として予算が関係しているところではなくても、目配りをしていくという文言として、チャットGPTのような生成AIに対する調査研究、それと図書館との関係を少し調査する時間・活動ができるといいのかなと思うのですがそれは難しいでしょうか。
- 図書館長** チャットGPTの存在自体は知っていますが、調査について考えるほど理解はしていません。まずはその勉強からなのかなとは思っています。
- 委員長** だからそういうことだと思うのですよ。小学生がチャットGPTを使って読書感想文を書くような時代の読書感想文の在り方とか、調べ教育の在り方とか、学校教育も直接関係してきてしまうものだと思います。チャットGPTがこんな回答を出してきたが、それが信用に足る情報なのか、図書館側での信頼性のようなものについて何か意見できるのかとか、あるいは議会などでAIに対して図書館はどう考えているのかと言われたときに、ある程度回答ができるように用意しておくことは必要なのかなと思います。生成系AI

で図書館サービスのこんな部分に関係しそうだという当たりを付けておくことは重要なと思っています。この計画にどう含めるのか少し難しいと思いますが、こういうものについて少し調査研究するといいかと思いました。

委員

例えば、単発のイベントで、チャットGPTではこういう回答が得られて、図書館の司書に同じ質問をしたらこういう回答が得られますよと。これで優劣をつけられると大変なのですが、一つの例として、チャットGPTとはどういうものか、それは本当にいいものか、われわれはどうやって使っていくべきなのか、そういう学ぶ機会を作って、信頼できないところも多いという話も出ているので、むやみやたらに使ってはいけないことが分かればいいのかと思います。図書館で研究するのではなくて、大学などで研究して発表してもらえればいいのかと思いました。

委員

チャットGPTも含む生成系AIに関して、図書館のこの計画の中に盛り込むのは難しいのかなとは考えています。教育に対する配慮については、教育委員会全体の計画なりプランにしっかり入れてもらうよう館長から教育委員会に伝えていただいて、そちらにつないでもらうのがいいかと思います。

委員

「②地域資料」の中の「語ろう！東久留米」というオーラルヒストリー事業は、市民に昔の思い出を語ってもらうという面白い取り組みです。それこそAIにはできないことなので、ぜひこういう事業をしっかり取り組んで、新しい情報を作っていることも併せてPRしていけるといいと思いました。

委員長

すごく重要ですね。他の図書館にもない話になるので、東久留米市立図書館ならではの話だと思います。

委員

「①資料・情報提供の充実と学習支援」の中の図書館フェスについてですが、最近の図書館フェスは地元の人というよりも、他市から著名な方を呼んできて「ヒトハコ図書館」に出展してもらっているという話を聞きました。すごく有名ではない方でも地元で本に関わる仕事をしていたり、趣味でも高いレベルで活動している方に協力してもらうことが必要ではないかと思います。この図書館フェスだけではなく、地元で少し知られている方を起用してもらえたらいいと思います。

委員長

事業計画についてはよろしいですか。次の議題に移りたいと思います。

3. 協議事項

①令和4年度図書館事業評価について

委員長

令和4年度図書館事業評価について、図書館長より説明をお願いします。

図書館長

資料3をご覧ください。令和4年度の図書館事業評価については、計画が策定されて3年目となる「第三次東久留米市子ども読書活動推進計画」に基づく事業について評価いただきたいと考えています。続いて、資料4をご覧ください

ださい。こちらは、令和4年度に行った子ども読書活動推進事業について、事業概要、実績、自己評価、課題をまとめたものです。実施事業のうち、「おはなし会」「よもう！あそぼう！かがくの本」「ストーリーフェスタ」「子ども読書応援団」「幼稚園・保育園訪問」が継続して行っているもので、次の「マルチメディアデイジー図書の閲覧・貸出」は令和4年度から開始した読書に特別な支援が必要な方に対しての新たな事業として行っています。次の「バリアフリー資料セットの貸出」も、令和4年度から特別支援学級のある学校を対象に行っていて、利用した感想や気付いた点などのアンケートに答えてもらいました。5年度については、全小学校に貸し出しを広げたいと考えています。貸し出したバリアフリー資料は、総合の授業などで利用してもらえらるものと考えています。

委員長

事業に不足はないかということで、第三次計画はコロナ禍の前に策定されたものです。この間にGIGAスクール構想が進展したこともあり、こども1人に1台、PCなりタブレット端末を持つ時代になりました。このことに関しては、この計画に入っていないのは当然ですけれども、この計画の最中にGIGAスクール構想が始まったことによる影響などに関して評価することは難しいと思いますが、少なくとも次の計画には反映できればと思います。

委員

この3月に文部科学省から第五次子どもの読書活動推進に関する基本的な計画が出たばかりで、それを見るとICT環境などについていろいろと盛り込まれているので、それを先取りするような形で、どのように取り組めばいいのか、考えていくといいのかなと思います。

委員長

こどもたちは、タブレット端末やPC端末をこちらが思ったことと違うような使い方をしているところもあり、大人が想像してもなかなか想像し切れないところもあるのだと思います。チャットGPTで読書感想文を書くような時代に何をどう考えればいいのかというのは想像するのは難しいところもあります。先の読めない時代ならではの子ども読書活動推進計画にしていかなければいけないのかなと思います。

委員

文部科学省の基本的方針の3つ目の「デジタル社会に対応した読書環境の整備」にGIGAスクール構想のことなどが書いてありますけれども、簡単に書いているなと思いました。

委員長

書くだけなら簡単な話なのですがけれども、実際にデジタルと読書はそんなに相性はよくありません。ただ、国の第五次計画はかなり参考になるということですね。

委員

これを追いかけて東久留米市も改定するようですね。

図書館長

東久留米市の計画は来年が5年目になります。計画期間は、おおむね5年計画となっていますので、国の第五次計画を視野に入れて来年度の改定を予定

しています。今回、令和4年度の図書館事業の評価として、子ども読書推進計画に基づく事業について評価いただく理由として、その辺も絡んでいます。今回、意見をいただいて第2回の会議で4年度の評価をまとめ、第2回会議の後半から第3回会議で次期計画への提言をいただきたいと思います。次回、第2回協議会では、国の第五次計画の資料なども参考として意見を伺いたいと考えています。

委員 昨年の秋の協議会で学校訪問、学校への貸し出し、図書館協力団体との協力事業などの数字を報告してもらいましたが、それもここに入りませんか。

委員長 実際にやっている側からすると当然のようになってしまい、評価を書かなかつたりするのですけれど、やっていることはできるだけ盛り込んだ方がいいのかと思います。

図書館主任 児童の事業はもっとありますが、第三次子ども読書推進計画で新しく始めたこと、第二次と第三次の間に始まったことなどがある中で、幼稚園保育園訪問、読書応援団については、第三次計画の中で始まった比較的新しい事業ということもあり載せています。学校訪問については、基本的には全校でやっていることもあって、今回は記載していません。

委員長 新しく始めた事業と従来からやっている事業で分けてもいいのかもしれませんが、できるだけポジティブな評価につながりそうなことは、ある程度載せておいてもいいのかと思います。

委員 作文的な話になりますが、子ども読書活動推進計画を読むと項目が立っているので、基本の方針として「発達段階ごとの効果的な読書活動」「読むこと読書のたのしみを社会全体で」「子ども読書応援団の運用」など、これらに対応する形で事業の評価を書いておくと、計画との関係が明確になるので、そのような形でまとめると教育委員会に説明するときに理解が得やすいのではと思いました。

委員 おはなし会は、これは主にこどもに向けて図書館職員がお話しするのですか。子ども読書応援団でいうと、読み聞かせの機会が多い専門職の方、幼稚園で働いている方を対象にしていますが、実際に家庭で読み聞かせをする機会の多い親に対しての講座みたいなものは今まで実施したことがありますか。

中央図書館長 子ども読書応援団のところに実績として読み聞かせ入門講座というものがあります。こちらがさまざまな方を対象にした読み聞かせの講座になります。今度は6月11日の開催予定で、15名の定員のところ、今20名の応募があります。

委員 人気があり必要とされている講座ということですね。

委員 去年も同じ時期ぐらいに開催して15人参加でしたよね。

委員 年に1回ということですが、もう少し回数を増やした方がいいのかなと思います。

ました。まだ父親がこういう機会に参加しにくい状況だと思いますので、機会を作ってもらえればと思います。

中央図書館長

委員

参考にさせていただきます。

なかなか図書館の担当者だけで回していくのは大変だとは思っているので、子ども読書応援団が助けになるといいと思います。実態として、あまりその活動の助けになっていないところもあり、何か工夫ができないかと思います。読み聞かせの入門講座に来たお母さん・お父さんの中で、応援団に入れる方は入ってもらって、一緒に勉強していこうということだと思うのですが、もう少しうまく活動ができていけばと思っているところです。どんどんやってもらおうと本当にいいのですが、児童担当者も普段のおはなし会の開催、研修の開催で、負担が大きいだろうなと思います。あとはコロナ禍で3年ぐらいできませんでしたが、ボランティアとして地域でお話をするグループがあって、ようやく再開できるようになってきているので、新たに活動が進んでいくといいかなと思います。

委員長

やはりポジティブなことを評価の方では書いておいた方がいいということはあると思いますが、ネガティブなこととしてコロナ禍3年間について、記録の意味でもコロナ禍においてできなかったことをきちんと残しておくことも重要だと思います。特に小学校の低学年や今4年生の児童は入学時からずっとコロナでした。中学生も中学3年間ずっとコロナだったという世代もあります。読書活動推進に関わるところで、どのくらいの負のインパクトがあったのかということに関しては、先ほどボランティアなどもなり手がいない、ある種のコミュニティなどが分断されてしまって、新しい血が入らないという、そういった3年間でもあったかと思います。ボランティアの協力を活用しているところで、その活動の元々のコミュニティが実は崩壊しかけているようなところもあり、ちょっと怖いなと思います。あと数年たたないと、このいろいろなインパクトは、分かってこないところもあろうかと思いますが、今分かることに関しては記録の意味も込めて何がしかの別項目というか、計画とは違うところでの負のインパクトみたいなものは残しておくといいのかなと思います。

図書館長

コロナ禍の実績なので、人数制限がなければ、数値自体はもっと増えているのではないかと思います。

委員長

数もそうですが、それで失われた何かなんですよ。そこまで分かってくるのは多分数年後だと思うのですけれどね。まずは数字だけでも、いろいろなところに負のインパクトがあったということを残してもらえればと思います。

委員

幼稚園・保育園訪問の自己評価・課題で、入園前の子どもと保護者を対象に

したおはなし会が好評だったということですが、これは要望があつて初めて実施した取り組みですか。

図書館主任

今回はたまたま園からの要望希望があつて特別に実施しました。

委員

こういうこともセットにして幼稚園にお知らせしたら、幼稚園側も分かりやすいと思います。

委員長

子ども読書活動推進計画も多岐にわたるところもありますし、予想しなかったようなこともあった時期ですので、いろいろあろうかと思ひますけれども、意見や少し気付いた点があれば、事務局へメール等でお知らせください。事務局においては、次回の協議会までにまとめて提示をお願いします。

②令和5年度選書・除籍の実績評価について

委員長

令和5年度選書・除籍の実績評価について、図書館長より説明をお願いします。

図書館長

資料5「選書・除籍の実績評価について」をご覧ください。評価フローには第1回から第3回の協議会でどのような作業をしていくのか示してあります。本日、第1回図書館協議会では、今年度計画した選書計画を提示することになります。続いて資料6「令和5年度選書について」をご覧ください。項目の1つ目「選書の前提」は、年度によってほぼ変わることがない選書の前提を改めて記載しています。項目の2つ目は、「令和5年度の選書の方向性」について5点挙げています。こちらの方向性も、前年度と大きく変わった所はありません。続いて資料7「令和5年度資料収集計画」をご覧ください。項目の1つ目「令和5年度指定管理者の選書について」として、今年度の指定管理者の選書の考え方をまとめています。項目の2つ目「選書の重点目標」として、1点目に「多様な価値観を持つ10代・20代を意識した選書」の留意点を挙げています。2点目に「利用者の課題や困難に対応する資料の選書」の留意点を挙げています。3点目に「子どものための選書」の留意点を挙げています。重点目標の「子どものための選書」とは別に年度によらない通しでの目標として、項目の3つ目に「児童書」を設けています。項目の4つ目「地区館」として、滝山・ひばりが丘・東部の3地区館それぞれの目標を記載しています。次に資料8「令和5年度選定目標（個別シート）」をご覧ください。こちらは選書の説明に当たって、毎年更新しているものです。「令和5年度選書の重点目標」の1つ目「多様な価値観を持つ10代・20代を意識した選書」についての目標及び留意事項、重点目標の2つ目「利用者の課題や困難に対応する資料の選書」についての目標及び留意事項、重点目標の3つ目「令和5年度児童図書収集計画」についての目標及び留意事項、重点目標の4つ目「令和5年度各館別選定」について滝山・ひばりが丘・東部

の各地区館ごとに目標及び留意事項、重点目標の5つ目「令和5年度中央図書館部門別選定会議」についての選定グループごとの目標及び留意事項を挙げています。

委員長

ただ今の説明を受けて、質問や意見があればお願いします。

図書館長

本日は年度当初の計画の説明ですが、計画自体は選書・除籍について年度が変わるごとに大きく変えてしまうものではありませんので、前年度を踏襲したのになっています。その中で特に注意事項や確認事項等があれば意見をお願いします。

委員

各地区館の特色について、前から一緒ですが、どうして踏襲されているのか、これが正しいかどうか、もう一回検討してはどうでしょうか。

図書館長

特色がガラリと変わることはないのでしょうけれども、表現としてより詳しく、分かりやすくというところでは、精査するべきなのかなとは思っています。

委員長

東久留米市の全体の蔵書に関して中長期的に考えるというものがあって、分担収集において文言やその趣旨をあまり大きく変えてしまうと、その大きな計画の方にも影響してしまうのかと思います。

委員

3館でバラバラですけれども、世代格差とか、これほど文言にするほどの格差が東久留米市の中であるのかという疑問です。

委員長

分担収集の考え方で、例えばすごく裕福な自治体のように、それぞれの図書館が充実した蔵書を買えるといいのですけれども、やはり全館で同じように大量の資料がそろえられないときは、この館ではある程度こういう分野はそろえられるというような形での重点目標を設定するのかなとは思っています。だから、それぞれの地区館の特徴をある程度反映した上で、東久留米全体に寄与できるような分担収集となるのかなとは思っています。

委員

分担収集するのは仕方がないとは思っていますが、市民は知らないと思います。ホームページにもそれが出していないので、広報する必要はあると思います。せっかく分担収集しても、例えば滝山に子育て世代の人が行ってしまって、何も借りる本がないと思われたら多分二度とその人は行かないし、行ったとしても数年後になると思います。機会を逃しかねないので、広報できるところはして、案内する必要があると思います。

図書館長

分担収集における各館の特徴について、おっしゃる通り市民の皆さんに知っていただきたいと思います。本自体はどの図書館でも取り寄せることが可能です。各館の特色があるので、利用いただけるように広報していくことが必要なのかなと思います。

委員長

厳密に分けるというよりは、例えば子育てに関する本はこちらの図書館に品ぞろえがある程度ありますということですね。うちの地域にはこれは全然な

いのかというネガティブな受け取られ方にならないような工夫があればと思います。それから、選書に関して毎回のように言うのですが、10代・20代を意識した選書というのは書くのは簡単ですが、実際はすごく難しいなと思います。

委員

私もこの資料をいただいたときに10代・20代を意識した選書の目標及び留意点の3点目で、インターネットが情報収集の入口となっているという部分があって、その真贋を見る力が育っていない者たちが、その情報を手にするわけですから、取捨選択する能力をいかに育成するかということは大変なところで、書籍をもってして、その能力を身に付けることは、どうしたらできるのだろうとすごく疑問で、それはイベント的にやるべきなのか、もしくは学校で直接指導すべきなのか、あるいは書籍をたくさん提供してその中から選んでもらうのか、すごく難しいところではあると思います。ただ、その提供されるさまざまな情報の中から自分で見つける力を養うための書籍においてのサポートは、少なくとも図書館でできるといいのかなと思っています。

委員長

実際のかなりのところまではいい具合にいけるのですけれど、その現場にこの本を入れるか否かのところまでいったとき、すごく難しい問題になるのですよね。特に先の見えない時代の中で、現場の方々は大変かと思えますけれども。でも一方で、そういうことを頭の片隅にでも置いていないと、なかなか良い蔵書にはなっていないのかなと思います。

副委員長

今の学習指導要領には言語活動と情報活用能力育成という二つの柱があるので、今回のGIGA端末構想の中では、情報活用能力、何が正しいかの選択、またインターネットの活用については、学校教育のベースとしてやらなければいけないカリキュラムになっていて、総合的な学習の時間も探究活動が中心なので、図書館が選書した本を活用するようにはなっています。

委員長

情報リテラシー能力を育成する際に使えるような資料を公共図書館でもある程度そろえて、学校を支援できるような体制にすることは重要だと思います。けれども、ここら辺の本は陳腐化が激しいので本当に難しいのですよね。

委員

学校と何らかの形で連携できればと思います。

委員長

学校図書館も予算の関係で新しい本をどんどん買う体制にはなっていない中、一方で情報だけはどんどん変わっていつてしまう時代なので、そこら辺が難しいところです。本というメディアがこういうことを支援するのに向いているのか、よく分からなくなっている中での話なので難しいです。

委員

10代・20代を意識した選書の部分で、どちらかという高校の高学年とか大学生以上を想定しているのではないかと思ったのと、一方で地区館のところにはティーンズの記述があって、ティーンズはヤングアダルトに相当するので多分、中・高生を想定したと思うところで、10代・20代がどうい

う人かということが明示されるといいのかなとは思いました。そして、これをどうやって集めるのかということは確かに難しいところではありますが、かなり細かく部門別選定の方針を中央に関しては作っているの、ここにはかなり大きな目標としてこういうものが掲げられていても、それはそれでいいのかなとは思っています。ただ、ティーンズはヤングアダルトとどう区別しているのかというところは、何かしらの説明があった方が、対象利用者層が見えるのかなと思いました。

委員長

対象利用者層というのは10代・20代の若者というだけで、われわれが思考停止してしまっているところがあるので、確かにもう少し具体的な10代・20代層が描けるといいですね。

委員

多分これから社会に出ようとするぐらいの子たちを想定しているのかなと思ったのですが、それが分かるようにしていただけると嬉しいです。

委員

「ぼけ☆ま」の参加者は、何年生、何歳ぐらいですか。

図書館主任

基本的には中学生です。高校生が少しいるというぐらいです。

委員

中学生のアンケートで小説の要望が高かったというのは、実際図書館や書籍に必要としているのは情報収集ではなくて、自分の心を育てるために読むことの方が多いいのかもしれないと思いました。やはり情報収集ではどうしてもインターネットにも負けてしまう部分もありますし、インターネットの情報もピンからキリですけれども、公共的なもののホームページなどにはしっかりとした情報を提供しているところもありますので、それとひたすら競争していくというよりも、何か別の観点で目標を定めるといいのかもしれないと思いました。

図書館主任

滝山の選定目標にあるティーンズは12・13歳ぐらいから高校生ぐらいまでのことで、一般書と児童書のどちらからも選ぶけれども、選定としては一般選定ではなくて児童選定の中で選書しています。重点目標の1項目の多様な価値観を持つ10代・20代というのは、これから社会に出ていく人たちに向けた選書で、基本的には一般書を意識した重点目標になっています。児童図書収集計画の3点目に書いてあるティーンズ向けの資料については、現在の中高生世代を取り巻く環境を考慮して、悩みに寄り添うとか問題解決のきっかけになる内容のものを集めることが書いてあります。今回重点目標を新しくするとき若い人たちを呼ぶにはどうしたらいいかなかなか具体の取り組みができないけれども、たまたま図書館を使ってもらう機会があったときのために、きちんとした本を置いておくことに選書では力を入れていこうということで、このようになっています。

委員長

ティーンズ向けとかヤングアダルト向けのベルの活用はどのぐらいしているのですか。

図書館主任

ヤングアダルト向けのベルは利用していませんが、岩波ジュニア新書は継続で購入しています。

委員長

この選書に関しては年間を通じて協議会の中でも何回か取り上げていくことになりますので、引き続きこちらの議論を踏まえて、次の協議会までに事務局で準備をお願いします。

4. その他

委員長

次第の4. その他に移りたいと思います。各委員から何か提案がありますか。先ほどの生成AIとの関係みたいなことを話したいのですけれども、多分もっと広いところでの話かもしれませんが、やはり目配りはしておかないとまずいのかなという気はします。というのも、アマゾンに自分で本を作れるキンドルデスクトップパブリッシングというものがあるのですけれども、その中に生成AIが作ったようなものがかなり出てきています。また、小説のコンクールなどでも、生成AIが作ったような物語の投稿が増えているらしく、本を作ることにそのものにインパクトを与えているところがあって、出版業界そのものがどうなってしまうのかというところで、この数カ月間にこんな話になるのかというぐらいになっていますので、注視していきたいなと思います。協議事項として取り上げるものではありませんが。

委員

紙の本は、編集者が入って作ってあるから、おおむね信用できますが、そのままAIが作ったものを印刷されてしまうと怖いですね。

委員長

画像生成系AIだとコンクールで優勝してしまっているのです、小説に関してのコンクールでもAIが作ったような文章があると思います。従来は例えば100件ぐらいしか応募がなかったようなコンクールに1000件とか2000件とか急にこの数カ月で増えているらしく、人間のものを探ることが難しいぐらいになってきてしまいました。短編小説の類は、すぐに書いてしまうので、人間だと1カ月とか2カ月頭をフル回転させて作ったような話を10秒とか20秒で作られてしまうと、「下手な鉄砲数打ちや当たる」にもなってきますので、なかなか難しいですね。出版不況の中で、あまり編集者の目が通ってこなかったような出版物も最近は多かった気がするのですが、昔ながらの編集者みたいな気質の人が、出版業界の中でも結構淘汰されてきてしまったところがあるのかもしれませんが。いろいろな昔ながらのレーベルなどは相変わらずいい本を出すのですけれども、新しいレーベルでバンバン出てくるようなところを見ていると、誤植や誤字脱字が多かったり、校正がきちんとされていないようなことがあったりもしますので、個人的にはどうかと思ったところもありました。

委員

各館でのご意見箱はどの辺りに設置されていますか。ひばりが丘図書館はカ

ウンターから見える記載台の所にあったのですが、東部図書館はどの辺りにありますか。

**中央図書館長
委員**

原則、記載台の上にあると思います。

目が行き届く所というのは、致し方ないのかもしれませんが、一方でやっぱり書きにくい雰囲気も感じられて、正直な意見を言えるような場所に設置した方がいいのではないかと思います。

中央図書館長

鍵を付けたご意見箱を用意して、カウンターから見える場所に設置していますが、検討はしたいと思います。

**図書館長
委員長**

市のホームページにもご意見箱があり、図書館への意見も受け付けています。記名で意見を言うのはハードルが高いので、匿名での意見というのは一方で重要だと思いますので、よろしくお願いします。それでは次回の日程を決めたいと思います。あらかじめ決めておいた方がいいと思いますので、館長から日程に関して何かありますか。

図書館長

候補日は第2回を10月25日（水）午前中、第3回を1月24日（水）午前中で調整したいと考えています。

委員長

活発なご意見ありがとうございました。これで第1回の図書館協議会を閉会したいと思います。円滑な審議に協力いただき、ありがとうございました。